

平成20年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について

東京都教育委員会が、平成21年 1月15日に実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」につきまして、調査結果の考察と、確かな学力向上に向けた今後の課題について、検討いたしましたのでお知らせします。

○観点別正答率（都・区・本校）

	問題を発見する力	見通す力	適用・応用する力	意志決定する力	表現する力
東京都	81.5	59.6	54.5	50.6	72.1
江戸川区	81.3	58.5	52.2	47.5	70.7
本校	74.1	62.1	53.0	48.3	72.4

○評価の観点

評価の観点	観点の趣旨
問題を発見する力	与えられた情報を分析・考察して、その状況において、解決が必要となる問題を見つけることができる。
見通す力	与えられた情報を分析・考察して、問題を解決するための方策や結果の予想を考えることができる。
適用・応用する力	既にもっている知識・技能等を活用するとともに、新たな分析や判断も加えて、問題を解決することができる。
意志決定する力	複数の条件を理解し、その条件に適切に対応して判断し、問題を解決することができる。
表現する力	問題の結論やその根拠を明確に表現したり、問題の解決の方法を適切に表現したりすることができる。

○各調査結果の考察と今後の課題

(1)問題を発見する力	…	都:81.5	区:81.3	本校:74.1
-------------	---	--------	--------	---------

～2枚の写真を比べて、問題を見いだす場面

唯一、都・区の平均を下回った分野である。この原因は、示された2枚の写真の新旧と、設問の選択肢の文意を読み誤ってしまったことによると考えられる。示された写真は、上段が30年前のもの（川におりる階段なし）、下段が現在のもの（川におりる階段あり）であった。この資料に対し、児童が誤答してしまった選択肢は、「30年くらい前にあった川におりる階段が、現在はなくなっているのはなぜだろうか。」というものである。2枚の写真の「階段があるかないか」という差異点に気づくことができたものの、早合点し、選択肢にあった「30年くらい前にあった」という部分が間違っていることを見落としてしまったのである。

他の選択肢を選んでしまった誤答や無回答がほぼ0だったことから、「問題を発見する力」という部分において課題を残したというよりも、課題文を「正確に読み取る力」という点において、課題があることがとらえることができる。

今後も、自ら問題を発見し解決する学習を意図的、計画的にすすめていくことはもとより、合わせて、正確に読み取る力の育成を図るために、本校の研究テーマである国語科の学習を充実していくことが大切である。

(2)見通す力	…	都:59.6	区:58.5	本校:62.1
---------	---	--------	--------	---------

～割引制度によってバス料金がどのようになるのかについて、結果の見通しをもつ場面

都・区の平均を上回った。これは、理科の学習等において、問題解決型の学習を大切にしていけるようになってきた成果と言える。今後も、自分は何を調べたいのか、そのためにはどのようなデータが必要なのか、そのデータを得るためにはどんな実験をしたらいいのか、を考えさせる学習を大切にしていきたい。合わせて、本校の研究テーマである国語科の学習においても、自分は何を主張したいのか、そのための根拠は何かといったことについて、しっかり考えさせていきたい。また、総合的な学習の時間においても、自分たちが得たい結果に向かって、そのためにはどんな努力をすればいいのか、努力することがどんな成果につながるのか、という見通しをもたせながら、活動を支援していきたい。

(3)適用・応用する力	…	都:54.5	区:52.2	本校:53.0	(4問のトータル)
-------------	---	--------	--------	---------	-----------

「適用・応用する力」を問う問題は、4問出題された。各々の設問について結果を概観すると次の通り。

- ①(理科)電気回路の学習経験から、懐中電灯がつかない原因について考え、適切に判断する。

都:58.0	区:54.7	本校:62.1
--------	--------	---------

都・区の平均を大きく上回った。これは、自分が今、何を調べるためにこの実験をしているのか、ということ意識しながら、学習活動を行うよう支援してきた成果と考えられる。今後も続けていきたい。

- ②(国語科)進行係として、話題がずれていることに気づいたとき、話し合う内容を修正する方法について考え、適切に判断する。

都:47.5	区:49.2	本校:51.7
--------	--------	---------

都・区の平均を大きく上回った。これは、総合的な学習の時間で、グループで自主的に活動するための話し合いの経験が多いことや、本校の研究テーマである国語科において「対話」を中心とした話し合い活動の経験を多数積んできた成果と考えられる。今後も続けていきたい。

③(社会科)地図の等高線と方位についての知識を用いて、条件に合うコースと正しいコース紹介文を考え、適切に判断する。

都:47.7	区:43.8	本校:37.9
--------	--------	---------

都・区の平均を大きく下回った。児童の誤答の状況から考えると、南北の方位は理解しているものの、等高線の見方についての理解が十分ではなかったもの、と考えられる。等高線の見方について、「等高線が混んでいるところは傾きが急であること」や「等高線の間が広いときは、傾きが緩やかであること」のイメージがもてるよう、立体模型等の活用を通して指導していくなど、社会科の学習についての指導の改善、充実を図っていききたい

④(算数科)目的に応じて単位や計器を選んで測定することを用いて、家庭の水の使用量について考え、適切に判断する。

都:64.7	区:61.2	本校:60.3
--------	--------	---------

都・区の平均を下回った。本学年の児童があまり得意ではない「単位をそろえて考える」という思考過程が必要な問題である。この問題を解くためには、「ペットボトルに150本」とか「10リットルのバケツで40はい」などと出てくる水の量を、すべて「リットル」にそろえて計算し、さらに、解答するためには、その計算結果を「200リットルの浴槽」で何杯分かに置き換える、という過程をたどる必要がある。したがって、ひとつの単位にそろえて、新たに自分で表を作り直す作業をするとわかりやすかったのだが、得られた情報を自分の必要に合わせて再構築するというステップに慣れていなかったことから、苦勞する児童が多かったものと推測される。そこで、今後は、筋道を明らかにして段階的に考えることができるよう、様々な場面をとらえて指導の改善・充実を図っていききたい

以上の結果から、新たな問題に対したとき、これまでの学習経験を適用・応用して解決を図っていくには、知識として学ぶべき事はしっかりと学んでいる必要がある。自ら課題を見つけ解決を見通して取り組む問題解決型の学習と合わせ、学ぶべき事をしっかりと身に付ける、教えるべき事はしっかりと教える、といった学習も、これまで通り、大切にしていきたいと考える。

(4)意志決定する力 …

都:50.6	区:47.5	本校:48.3
--------	--------	---------

～留守番の場面で、親からの依頼と本人の考えという複数の条件を理解し、それらの条件に合った予定を考え、適切に判断する。

都の平均には及ばなかったものの、区の平均は上回った。しかし、この問題に対する児童の誤答の状況を考えると、それが、「意志決定する力」の不足のみ、によるものなのかは、慎重に検討しなければならない。この問題に対する、もっとも多かった誤答は、「洗濯物を干し終わってから5時間以上たったら、取り込んでたたむ」という条件なのに対し、「10:30干し終わり」「15:00たたむ」という選択肢を選んでしまった、というものであった。この選択肢では、「干し始め」が10:00であり、5時間後の条件を満たす、と早合点してしまったことが予想される。このことから、意志決定する力を育てるために、児童が自分自身の力で物事を決定していく経験を積ませるようにしていくことはもちろんであるが、合わせて、本校の研究テーマである国語科の学習において、「細かいところまで正確に読み取る」といった学習の充実を図っていくことが大切であると考える。

(5)表現する力 …

都:72.1	区:70.7	本校:72.4
--------	--------	---------

～デパートで迷子の面倒を見る場面において、事実を基にして店員に状況を説明する内容を文章で、適切に表現する。

都、区の平均を上回った。本学年の児童は、これまで、総合的な学習の時間において、3・4年生時には、荒川中土手探検の報告会を、そして、5年生では、3日間の職場体験の報告会を経験するなど、自分が「話し手」となる経験を数多く積んできた成果と考えられる。しかし、一方では、情報を集めたり、読み取ったりすることはできるものの、それらを順序よく表現することがまだまだ十分とは言えない児童も多い。自分が言いたいことを、よりわかりやすく相手に伝えるためには、どのような順序で説明すればよいのかを検討させたり、「事実」と「感じたこと・考えたこと」を区別しながら、発表する内容をまとめているか、ということについて、お互いに確かめたりする場面を意図的に設定していくなどの、指導の改善・充実を図ることが大切であると考える。